

屋久島生態系モニタリング

大王杉付近から宮之浦岳山頂における植生垂直分布調査(平成14年度調査)

・高塚小屋周辺(標高1,350m地点)

スキ(胸高直径100cm、樹高20m程度)・ヒメジャラ(樹高13~14m)が多く、それにヒメジャラ・ヤマガルマの高木が混生する。亜高木にはヤマガルマが多い。低木層にはハイノキ・ヤクシマシヤクナゲが多く、アセビ・シキミも混生する。

小屋の南側では表土が流出し、スキ・ヒメジャラの根が地表に浮き出ており、登山者によって痛めつけられている。

トイレの周囲から西側にかけてはスキ・ヒメジャラ・ヤマガルマの高木・タンサワフタギ・ヤマホウシ・リウブ・ユズリハの亜高木が出現する。低木層のほとんどがハイノキであるが、サクラツツジ・ヒメシサキも出現する。

トイレの東側斜面にはヒメジャラ・ヤマガルマ・ヤマホウシが多く、ヒメジャラ~ハイノキ群集になっている。小屋の北側のハイノキには、臭気によって枯死状態になっている個体が見られる。

環境学を以て連環この携境のの学議は
習提供の環も習会施議
た関連する境と学に設は
見め連環の境と習、等、
し交換相設との習もブ屋の島
い換相互のとす行調利に口久有内
まを互のとす行調利に口久有内
し。う整用に口久有内
こ及び促、グ鳥機に
とび進環ラな
を情を境ムらなる

すきの上、こと加となるつこ員がまで
。る上、こと加となるつこ員がまで
。交換を構行つたもい
。見連携方策等行つたもい
。な、必お要、構成るじこ員がまで
。交換を構行つたもい
。見連携方策等行つたもい
。な、必お要、構成るじこ員がまで

平成十六年度、第二回会議が
二月二十五日開催される

屋久島環境学 ネットワーク会議開催



(木柵工実施状況)

植等に記上
生に回載記
復いし復の
工事ててモ
事はいるニ
着本年土ン
手年度のグ
し度流調
、か流出
一ら査

高塚小屋周辺の植生回復事業実施状況



(ドシャマットの被覆状況)

すが、本八
す、年号で
実施度分お
状況は知ら
写真完了せ
を掲ました
載しと



(紀元杉の説明)

二月九日、兵庫関係者
労働常任委員会の一行の
さんが、委員会活動の一資
されたため、屋久島を現地視察す

兵庫関係者
屋久島さん視察

大百年ら触な千し生及の界
。変も腐やれ森年一た等案び説自
。感動し久屋、生行。に紀明然
動ら久特系久の屋の。及び元や遺
してない杉にやを皆杉さん含は、
。埋ケ自然原樹樹をんは、樹齡数
る木の素景生樹樹をんは、樹齡数
まのが素景生樹樹をんは、樹齡数
しに数晴に的数

屋久島の植物



キランソウ
(しそ科)

ヤクシマシヤクナゲ 着蓄状況写真



屋久島の固有種オオカオウレン
(キンポウゲ科)



タズ高。全。ら四見
。高。草。方。毛。か。畑
。シ。別。草。に。が。け。地
。ゴ。名。葉。縁。ひ。あ。や
。ク。ノ。用。に。ろ。ろ。多。路
。カ。シ。と。あ。は。ら。年。傍
。マ。イ。人。い。ら。の。草。な
。ノ。気。て。い。る。は。地。ど
。フ。気。シ。人。い。ら。は。地。に
。ラ。気。シ。人。い。ら。は。地。に

調査報告書リスト

平成14年度以降、屋久島森林生態系保護地域等へ調査・研究のため入林された方からの調査報告書を掲載します。(16年度末まで)

No	報 告 書 名	報 告 者 氏 名 (機 関)
116	Population density and group composition of Japanese sika deer (<i>Cervus nippon yakusyemae</i>) in an evergreen broad-leaved forest in Yakusyima, southern Japan	NAOKI AGETSUMA, HIDEKI SUGIURA, DAVID A. HILL, YOSHIMI AGETSUMA AND TOSHIKI TANAKA
117	「大陸から輸送されるエアロゾル中のSO ₄ が屋久島の森林に及ぼす影響」研究成果報告書	研究代表者 久米 篤(富山大学理学部生活圏環境科学科) 研究分担者 永淵 修(福岡県保健環境研究所)
118	第5回 屋久島フィールドワーク講座報告書 開催期間:平成15年8月18日~25日	上屋久町 京都大学21世紀COEプログラム 「生物多様性研究の統合のための拠点形成」
119	平成15年度環境省地球環境保全等試験研究 屋久島森林生態系」における固有樹種と遺伝多様性の保全に関する研究(研究推進評価会議資料)	農林水産技術会議事務局 森林総合研究所
120	ヤクスギの更新と光環境の関係について	高嶋 敦史・吉田茂二郎・村上拓彦
121	Mass mortality of Japanese macaques in a westal foyest of Yakushima	Goro HANYA, Miki MATSUBARA, Hideki SUGIURA, Sachiko HAYAKUWA, Shunji GOTO, Toshiaki TANAKA, Joseph SOLTIS, and Naohiko NOMA
122	種子島におけるヤクタネゴヨウの新群生地の発見	金谷整一・池亀寛治・手塚賢至・寺川眞理・湯本貴和
123	Effects of sika deer on tree seedlings in a warm temperate forest on Yakusyima Island, Japan	Riyou TSUJINO and Takakazu YUMOTO
124-1	屋久島の哺乳類による爬虫両生類の捕食	松原 幹
124-2	野生ニホンザルの母によるドングリを用いた赤ん坊をなだめる行動	松原 幹・Miho Funakoshi
124-3	野生ヤクシマザルのオスにおけるメス囲い込み交尾戦術と機会依存的交尾戦術のコストについて	松原 幹
124-4	野生ニホンザルメスにおける多頭交尾のコストについて	松原 幹・David S. Sprague
125	Natural and Human Ecosystems of Yakushima	Masamu Aniya(ed.) Graduate School of Environmental The University of Tsukuba May 2004
126	屋久島におけるタヌキの分布調査報告	(財)自然環境研究センター
127	Environmental determinants of the altitudinal varitudinal in relative group densities of Japanese macaques on Yakushima	Goro HANYA, Sinichi YOSHIHIRO, Koichiro ZAMMA, Hajime MATSUBARA, Masaru OHTAKE, Ritsuko KUBO, Naohiko NAMA, Naoki AGETSUMA, and Yukio TAKAHATA